

市民公募型モデル事業アドバイザー実施報告書

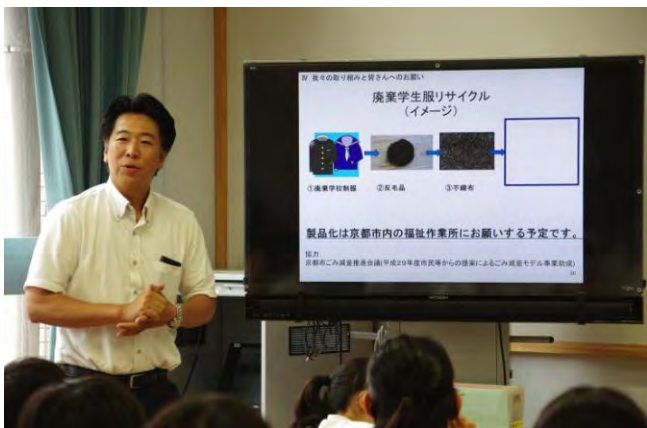
年 月 日

報告者	前田 綾
訪問先団体名称	一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
事業名	廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化
訪問日時	2017/7/5
訪問回	1 回目
相手方対応者	一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 研究会委員長 木村先生（京都工芸繊維大学名誉教授） 推進委員長 森さん、推進メンバー 迫部さん、長屋さん

■活動報告記事（400～800 字程度）

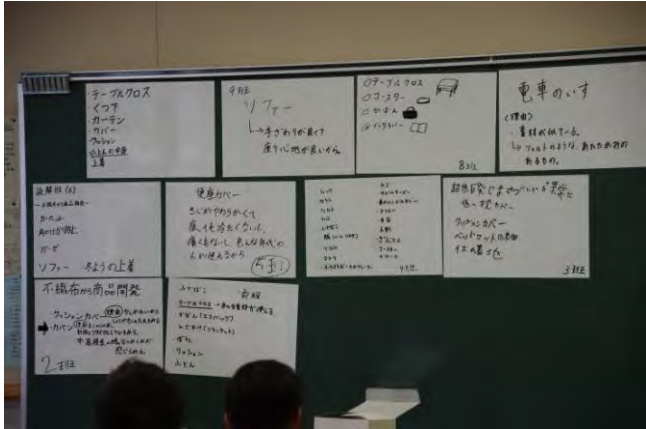


小雨が降り続く 7 月 5 日、一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 制服実行委員会による授業が家庭科の時間に“「環境問題」と「繊維のリサイクル」について考える”特別授業が京都市立京都御池中学校 7 年 6 組で行われました。



授業では、地球温暖化などの環境問題、京都議定書やパリ協定について解説をはじめ、日本で取り組まれている 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の紹介、ごみを減らす理由として京都市の最終処分場の現状などの話の後、本題となる繊維リサイクルの話へつなげます。廃棄されている衣類の 80% が焼却され埋め立てられているという現状から、ごみを減らす手段の 1 つとして行われる、廃棄学校制

服を素材とする付加価値のある製品（アップサイクル品）を製品化する今回の事業についての説明が行われました。ブレザーやスボン、スカートなどの廃棄学校制服を、再び利用できる反毛（はんもう）とした後、不織布に加工し製品を作る流れが紹介され、反毛や不織布の実物サンプルを触って確かめてもらいました。講義の後には班ごとにわかれて、アップサイクルされる製品についてアイデアを出し合ってもらいました。生徒のみなさんからは、日常使うものから公共のものまで、新たに生まれ変わる製品について、たくさんのアイデアを聞かせていただきました。



今回の事業では、この授業を中学一年生6クラスでそれぞれ行い、生徒たちの意見をもとにアップサイクル品が検討されることになります。この特別授業、生徒たちはメモを取りながら真剣に授業を聞き、アイデア出しの時には多くの意見が飛び交っていました。生徒のみなさんがアップサイクル品を手にする日が今から楽しみです！

市民公募型モデル事業アドバイザー実施報告書

年 月 日

報告者	前田 綾
訪問先団体名称	一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
事業名	廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化
訪問日時	2017/7/28
訪問回	2 回目
相手方対応者	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 研究会委員長 木村先生（京都工芸繊維大学名誉教授） 他研究会のみなさん

■活動報告記事（400～800 字程度）



7 月 28 日、一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 制服実行委員会に参加しました。今回は、京都市立京都御池中学校 7 年生で実施した授業の中で生徒から出てきたアイデアから、実際に廃棄学校制服のアップサイクル品の品目を決めて動き始める、大きな一歩を踏み出す会議となりました。



生徒たちから出てきたアイデアは、類似品をまとめてカウントしても 104 種類。その中から、今回制服のアップサイクルによって作成される不織布の特性を考えた上で製作ができて使ってもらえるもの、さらには今後販売できるものは何か？というところを、みなさんと真剣に意見を出し合い検討されてい

ました。活発な意見交換の結果、生徒たちのアイデアの中から、「筆箱」、「バック」、「災害用マット」、「鍋つかみ」のどれかを実際に商品として作るため、当初から予定しているアップサイクル品の1つ目である「防災ずきん」とあわせて製作を委託する福祉作業所と検討に入ることが決まりました。また、将来的に買ってもらえるものとするために、マークを作るかどうか？の話も今後検討に入られることになりました。

繊維における各方面からのプロが集まっている制服実行委員会、廃棄制服からどのような製品ができるのか、完成が待ち遠しいです。

市民公募型モデル事業アドバイザー実施報告書

年 月 日

報告者	前田 綾
訪問先団体名称	一般社団法人 日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会
事業名	廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化
訪問日時	2018/3/2
訪問回	3 回目
相手方対応者	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 研究会委員長 木村先生（京都工芸繊維大学名誉教授） 推進委員長 森さん、推進メンバー 長屋さん

■活動報告記事（400～800 字程度）



年度末も近づいてきた 3 月 2 日、8 ヶ月ぶりに一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会のメンバーが京都市立京都御池中学校 7 年生の授業に参加しました。今回は、8 ヶ月前の 7 月に行われた授業で廃棄制服のアップサイクル品に何を作るかを真剣に考えてくれた学生たちへ、活動報告と完成した製品の贈呈式を行いました。



筆箱の中に入ったストーリー紙を真剣に見てくれていました

御池中学校での制服リユースは 3、4 年前からスタートしており、今回のアップサイクルに使われたものは、お下がりとしても引き取り手がなかった制服 71 着。制服の反毛工程（^{はんもう}わたに返すこと）では、予想して

いなかった制服の裏地に使用されていた白糸が混入するというトラブルが発生し、このままでは次工程の不織布製造工程で受け入れてもらえないことがわかるなど、一時は完成が危ぶまれる事態にも陥りましたが、無事に完成することができました。そして、今回のアップサイクル品をより魅力的なものに引き立てる重要な役割をしているのは、京都女子大学の協力によりコンペ形式でデザインを決めた「織りネーム」と筆箱の中に入れた製品を説明する「ストーリー紙」。筆箱を手にとった生徒たちは、生地の変化や「織りネーム」、「ストーリー紙」を見て色々と感じ取ってくれていたようでした。



今回作成した、防災頭巾2つと、筆箱

授業の最後にも書いてもらったアンケートでは、このアップサイクル品の筆箱を“買う”と答えてくれた生徒が多くおり、購入希望価格は数百円から千円台までそれぞれの値段を考えてくれていました。“買う”と答えた生徒からは、「使っていた制服が筆箱になり、その筆箱を使うことによって自分が社会に貢献できていると感じるから」という感想や、“買わない”という回答の生徒の意見の中には、「欲しくなるデザインだけど、制服をリサイクルしていることを在校生に説明して、環境問題について考えてもらうため、今回のように寄贈することがいいと思う」という意見もあり今後にかける貴重な生徒たちの意見を聞くことができました。すぐに筆箱を使い始める生徒や、次の製品案を考えてくれる生徒たちなど、今回の事業で伝えたかったことが、伝わったことを実感することができた貴重な時間となりました。今後、この活動がどのような展開を見せて行くのか、この先も目が離せません。